

新研究開発拠点として 茨城県つくばみらい市に「(仮称)イノベーションセンター」を建設

高砂熱学工業株式会社
本社・東京都新宿区新宿6-27-30
会長兼社長・大内 厚、資本金131億3491万円

高砂熱学工業株式会社は、かねて取得していた茨城県つくばみらい市の用地(敷地面積:22,746㎡)に、技術研究所を移転するとともに本社機能の開発企画・開発部門を併設する「(仮称)イノベーションセンター」(以降、イノベーションセンター)の建設工事に着手します。

< (仮称)イノベーションセンター >



新研究開発拠点の構想は、イノベーションが自然発生する企業風土の醸成を目指し、2017年4月「事業革新本部」に新設した「イノベーションセンター」(本部長兼センター長:山分弘史取締役常務執行役員)ならびにその傘下の「新研究所建設室」で取り組んでいましたが、茨城県から本社機能移転強化促進補助金^(※1)の提案をいただいたことから、現在の技術研究所(神奈川県厚木市)の移転に加えて、本社機能のうち開発企画・開発部門の移転も併せて行うこととしました。

工事に関しては1月29日に地鎮祭を執り行い、2月1日の着工、2020年1月末の完成といったスケジュールで臨んでいきます。

イノベーションセンターの全体像としては敷地内に、オフィス棟、設備展示棟・プレゼンルーム、ラボ棟で構成する施設と、地域開放の庭などの配置を計画しています。



同センターでは、マーケティング機能の整備、先端技術に係る研究開発機能の強化、インキュベーション機能の整備なども併せて行うこととしています。

なお、研究開発にあたっては、(国研)産業技術総合研究所の研究機関や大学との連携を一層強化して取り組んでまいります。

【オフィス棟ではZEBを目標に・・・】

同センターは、「地球環境負荷低減と役割・新機能による知的生産性向上を両立したサステナブル建築」と位置づけており、建物全体に省エネソリューションを施すことでオフィス棟ではZEB(ネット・ゼロ・エネルギー・ビル)を、敷地全体でZEB Ready(※2)相当を目指します。

施設のうちメインのオフィス棟ではZEBを実現するため、以下の最新技術を導入します。

●地下水をカスケード熱利用した3つの空調システム

- ・地下水のゼロ次熱利用 → 地下水蓄熱槽による床放射空調
- ・地下水の1次熱利用 → デシカント空調機・放射空調・デスク空調・DCファン付コイルユニット
- ・地下水の2次熱利用 → 水冷ヒートポンプ空調機の採用

●再生可能エネルギー利用の安定化

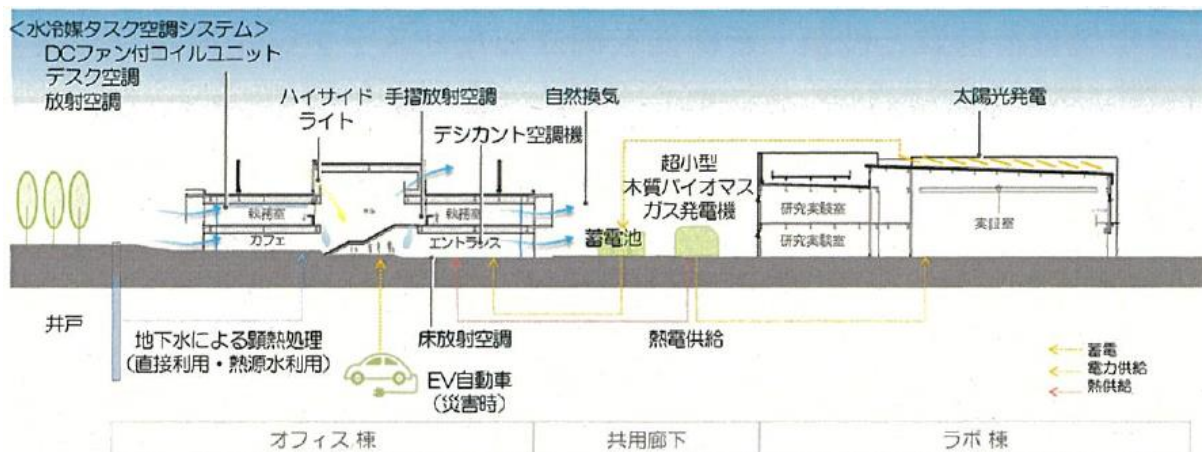
- ・木質バイオマス発電機による熱電供給
(デシカント空調機、暖房・給湯への利用ならびにチップ乾燥利用)
- ・太陽光発電 + 蓄電池 + 電気自動車による電力自給率向上・ヒートカット・電源バックアップ

●屋光利用と卓越風を利用した自然換気窓の採用

- ・ハイサイドライト、自然換気窓による屋光利用
- ・自然換気窓による中間期の外気冷房の利用

●金属性放射パネルを利用した間接照明システム

- ・放射パネルを輝度面としたやわらかい光による間接照明システム



省CO₂と知的生産性向上の両立を目指す同センター新築プロジェクトは、多彩な技術の導入提案と先導性が評価され、国土交通省「平成30年度第1回サステナブル建築物等先導事業(省CO₂先導型)」(※3)に採択されました。

完成後は、空間に応じた空調システムを使用し、快適な執務空間に向け、個別調整が可能な仕掛けを入れた空調システムを導入することで、知的生産性向上についての検証を進めていく予定です。

なお、当センターの建物概要は次頁のとおりです。

イノベーションセンターの概要

所在地：茨城県つくばみらい市富士見ヶ丘2-19
 名称：(仮称)イノベーションセンター
 敷地面積：22,746平方メートル
 建築面積：約7,100平方メートル
 延床面積：約11,600平方メートル
 構造：鉄骨造
 階数：地上2階
 着工：2019年2月1日
 竣工：2020年1月末

以上

お問い合わせ先

経営企画部広報室 鷺尾、土屋まで TEL 03(6369)8215(直通)
 鷺尾 携帯：090-4437-3858 E-mail: masaki_washio@tte-net.com
 土屋 携帯：080-9347-5316 E-mail: takuhito_tsuchiya@tte-net.com

<ご参考>

(※1)茨城県の本社移転強化促進補助金ならびに1/22補助金認定式について

同県では、地方創生の大きな柱となる本社機能誘致を推進するため、今年度、新たな成長分野等の本社や本社機能、研究所等の誘致を目的として、全国でもトップクラスの補助率・補助上限額となる「本社機能移転強化促進補助金」を創設し、同補助金を活用した誘致活動を強力に押し進めております。

なお、1月22日、知事応接室において事業認定式が開催され、当社からは大内会長兼社長、山分本部長が出席し、認定書の授与が行われました。同日、報道関係に配布された当社に係わる本社機能誘致に至る経緯は以下のとおりです。

【高砂熱学工業㈱の本社機能誘致に至る経緯】

- ・高砂熱学工業㈱が、技術研究所(神奈川県厚木市)の移転を検討しているとの情報を得て、同社に積極的な誘致活動を展開した結果、つくばみらい市(TXみらい平駅近隣2.3ha)への立地が決定したところ。
- ・今般、さらに、大井川知事による本社機能誘致を強化する方針のもと、技術研究所に加えて、新宿本社から本社機能も移転するよう強く働きかけを行ったもの。
- ・このような働きかけの結果、同社においては、都心に一極集中する本社や研究所の地方移転を図る地方創生に賛同し、技術研究所に加えて、本社機能のうち開発企画・開発部門(新技術開発部、新規事業開発部、IoT・AI開発部等)の移転も決定したものの。
- ・移転後、同社は、つくばの研究機関(産業技術総合研究所、筑波大学等)とのさらなる連携強化を進めるとともに、地元小中学生向けの体験学習の受入れなど、地域貢献への取組も推進する意向。
- ・今回の移転により、地元採用も含めて、全体120人の雇用が見込まれるとともに、空調工事最大手企業の本社機能が移転することにより、より質の高い雇用の創出が期待できるもの。

(※2) ZEB(Net Zero Energy Building)とは、快適な室内環境を実現しながら、建物で消費する年間の一次エネルギーの収支をゼロにすることを目指した建物であり、以下の3段階に定義されます。

- ①ZEB Ready・・・50%以上の一次エネルギー消費量の削減を実現している建物。
- ②Nearly ZEB・・・省エネ(50%以上)+創エネで75%以上の一次エネルギー消費量の削減を実現している建物。
- ③ZEB・・・・・・・省エネ(50%以上)+創エネで100%以上の一次エネルギー消費量の削減を実現している建物。

(※3) 国立研究開発法人建築研究所による評価をもとに、国土交通省が事業採択を実施している「平成30年度第1回サステナブル建築物先導事業(省CO₂先導型)」の評価結果(「地下水をカスケード熱利用した3つの空調システム」、「昼光利用と卓越風を利用した自然換気窓の採用」が採択対象となります。)

建物種別	プロジェクト名	提案の概要	概評
	代表提案者		
建築物 (非住宅)/ 一般部門	(仮称)イノベーションセンター新築工事	研究拠点施設の新築プロジェクト。地球環境負荷削減と知的生産性向上を両立したサステナブル建築をコンセプトに、再生可能エネルギーや先導的な空調システムを積極的に活用し、多様な執務や環境を構築しつつセンター全体でZEB Readyの実現を目指す。	オフィス棟においてZEBを、センター全体としてZEB Readyを目指しており、昼光利用や自然換気、地下水のカスケード熱利用、使用目的に応じた方式でのタスク空調など、省CO ₂ と知的生産性向上の両立に向けた多彩な技術を導入する提案であり、先導的と評価した。
	高砂熱学工業株式会社		